
取り組み状況報告



- ①ふるさとCo-Leadプログラム
- ②多度山グリーン好循環創出事業
- ③市役所本庁舎への再生可能エネルギー導入
- ④寄付型自動販売機の設置
- ⑤ゼロカーボンシティくわなロゴマーク
- ⑥再生可能エネルギーを活用して栽培されたトマト販売
- ⑦次世代自動車の導入
- ⑧グリーンIoTラボ・桑名への提案状況

①ふるさとCo-Leadプログラム

- 正式名称は、「令和3年度 戦略的基盤技術高度化・連携支援事業 高度デジタル人材による地域中小企業デジタル化支援可能性調査「ふるさとCo-Leadプログラム」」
- 自社課題の解決を目指す**地域中小企業と高度デジタル人材をマッチングし、デジタルを活用した新たなビジネスモデル案を共同して作成**する経済産業省(商務情報政策局)が実施するプログラムです
- グリーンIoTラボ・桑名は、このプログラムの実施地域として、全国105の地方版IoT推進ラボの中から選定される3地域のうちの一つに選ばれました
(**桑名市**、北海道北見市、沖縄県)

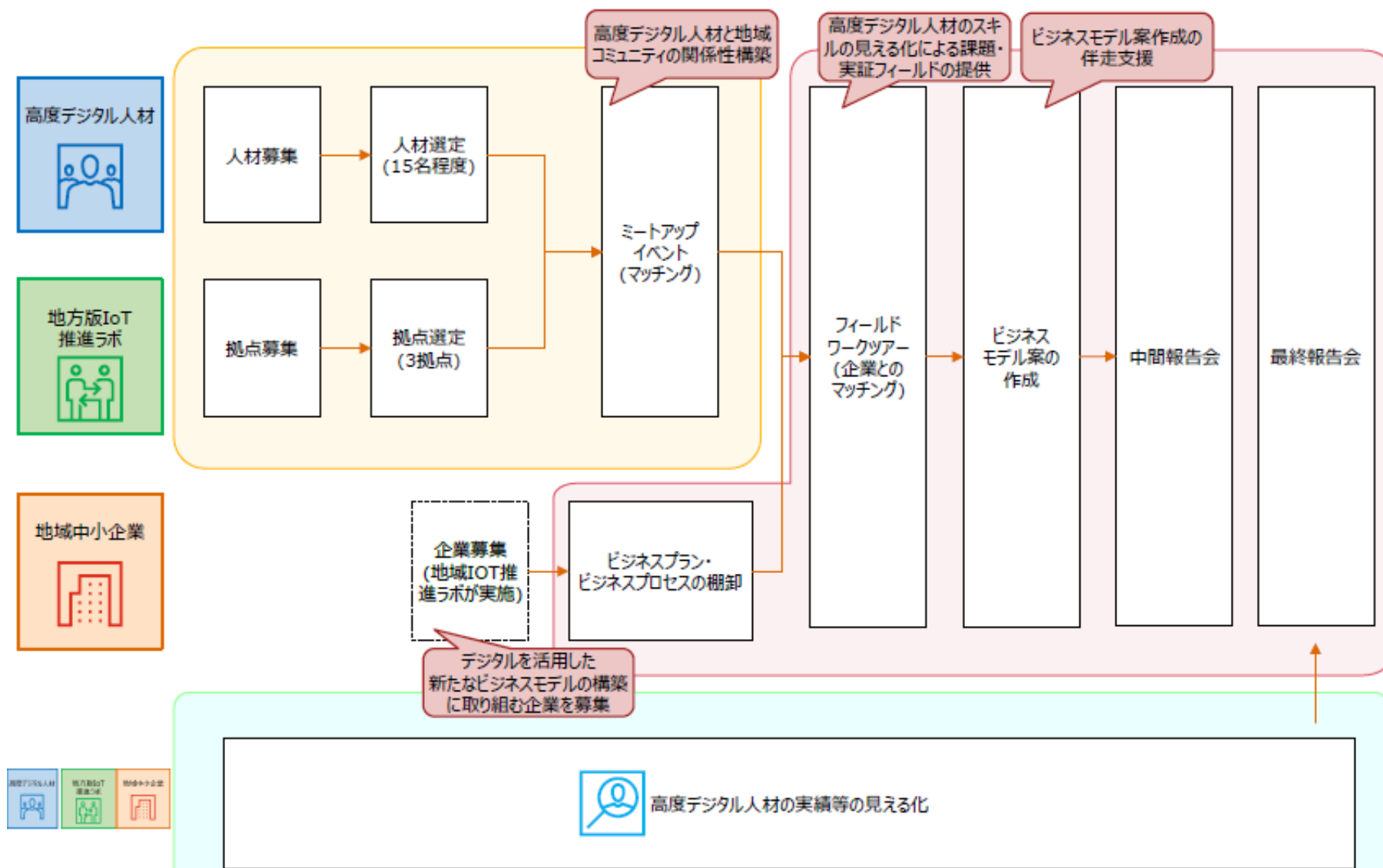
ミートアップイベント

- ・10月10日開催(web会議)
- ・経済産業省が募集した高度デジタル人材16名に対し、3地域のIoTラボが、各地域の魅力や課題等についてプレゼンテーションを行うとともに、お互いに意見交換を行いました
- ・後日、フィールドワークツアーのマッチングが行われました

フィールドワークツアー

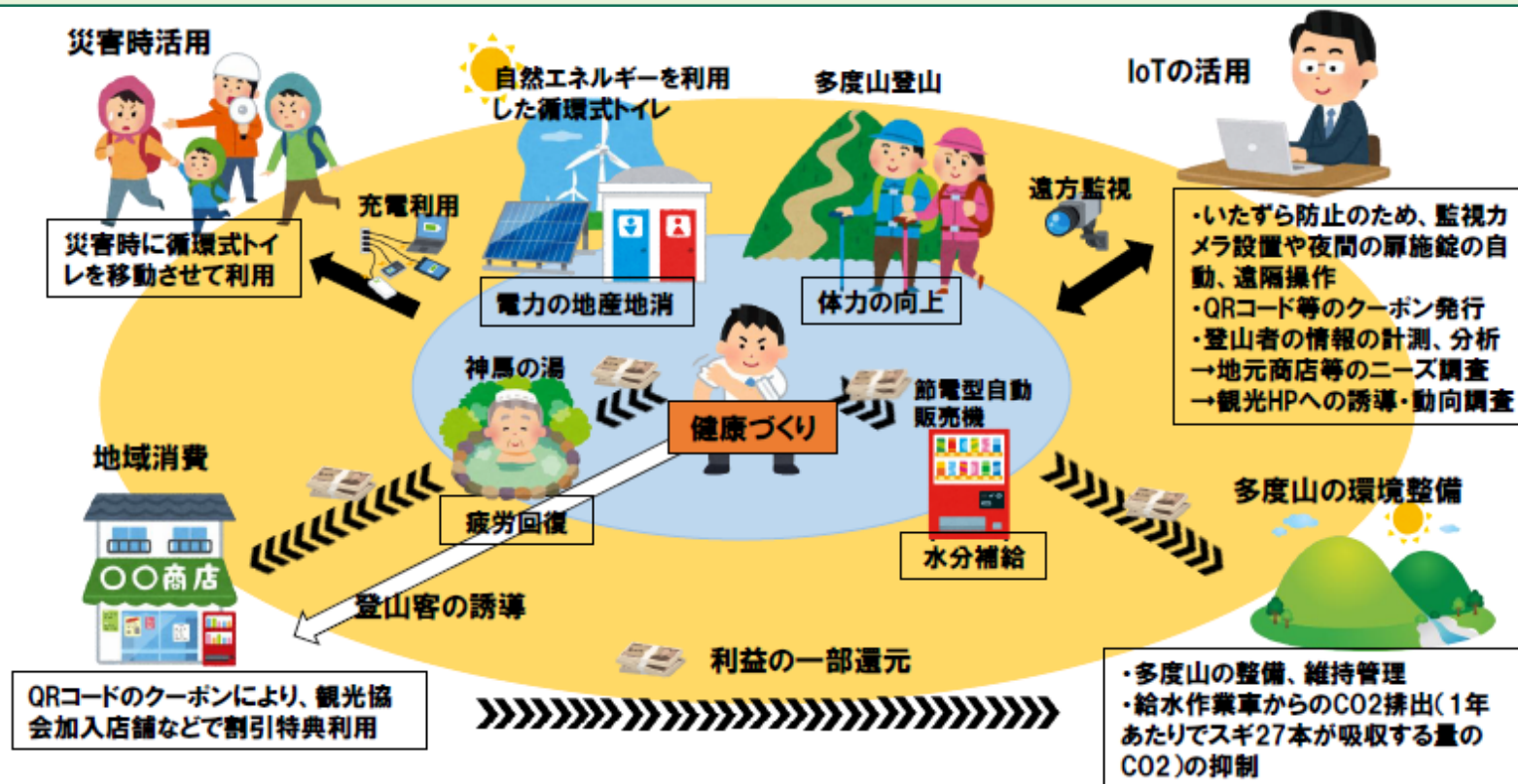
- ・桑名市では、11月25日から27日に実施(5名来桑)
- ・高度デジタル人材が各地域の企業を訪問し、企業が抱える課題等について現地視察を行う

①ふるさとCo-Leadプログラム



②多度山グリーン好循環創出事業

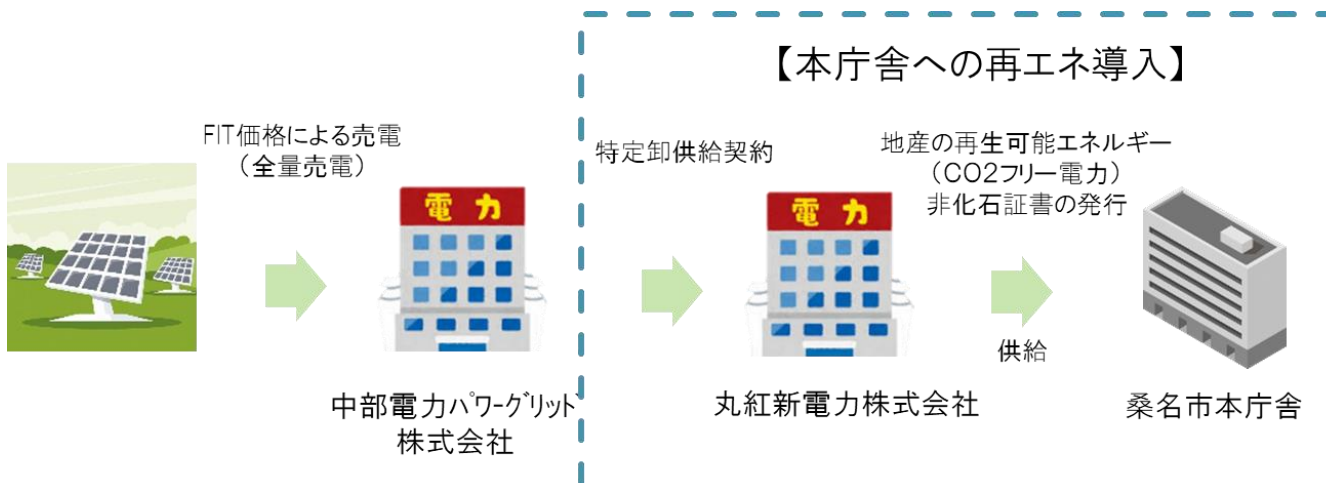
- 多度山上公園に太陽光、風力等の再生可能エネルギーを利用した循環式トイレや健康飲料の自動販売機を設置します
- 健康増進施設で疲れを癒し、登山での健康づくりをサポートします



- ▶ 多度山登山で“健康づくり”を実施し、温泉や地域店舗での消費に誘導し地域経済の発展に繋げる。利用された店舗はその利益の一部を多度山の維持管理に還元することで、地域一体となって多度の自然を守る持続可能な取り組み。

③市役所本庁舎への再生可能エネルギー導入

- 10月1日から、市役所本庁舎に100%再生可能エネルギーの供給が始まりました
- 年間約450t(一般家庭約165世帯分)のCO2削減効果が見込まれます



ゼロカーボンシティ 市役所本庁舎の電気が100%再生可能エネルギーに！

市では、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ宣言」を行っており、10月からは本庁舎で使用する電気に木曽御干拓地メガソーラーで発電された100%再生可能エネルギーを導入します。

これにより、年間約450トン（一般家庭約165世帯分）の二酸化炭素削減効果が見込まれています。

これからも地球温暖化の原因とされる二酸化炭素排出量の削減に努め、ゼロカーボンシティの実現をめざします。

グリーン資産創造課 ☎ 24-1217 FAX 24-6312



桑名市広報10月1日号に掲載

④寄付型自動販売機の設置

- 公共施設空きスペースサウンディング型市場調査を実施したところ、コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社様がグリーンIoTラボ・桑名の活動内容にご賛同いただき、飲料水等の売上金額の一部を協議会へ寄付していただく寄付型自動販売機を市役所4階に設置していただきました
- グリーンIoTラボ・桑名への寄附型自動販売機の設置は2台目となります



Coke Red

Coca-Cola
BOTTLEERS JAPAN INC.



ラッピング イメージ図

⑤ゼロカーボンシティくわなロゴマーク

- ゼロカーボンシティを推進するため、**市職員**が2種類のロゴマークを作成しました
- 市広報やホームページ、ポスターなどで活用し、市民や事業者の方々にゼロカーボンシティの実現に向けて積極的な啓発を行っていきます。



⑥再生可能エネルギーを活用して栽培されたトマト販売

- NTN株式会社様のグリーンパワーパークでは、風力や太陽光の再生可能エネルギーを活用して発電した電力をトマトやレタスなどの野菜を栽培する工場の空調等の電源に使用しています
- 再生可能エネルギーを活用して栽培されたトマトの販売が市役所本庁舎で行われました



ミニトマトとロメインレタス



販売風景



NTNは、桑名市がすすめる「グリーンIoTラボ・桑名」に参加しています。

自然エネルギー商品を活用した防災・減災の取り組み

近年、日本国内では台風や地震などの自然災害に伴う、停電が大きな問題となっています。停電時には、通信と情報不足による不安が募ります。

NTNのベアリング技術を活かして発電装置を開発

N³ エヌキューブ

災害時、被災地に発電装置セットを届ける

- コンテナに3組の発電装置（風力、太陽光）と蓄電池を収納
- 被災地に運び、すぐに発電が可能
- 豊富な蓄電容量でスマートフォン2,000台を充電可能
- コンテナ内部は休養所や炊飯室、トイレとしても使用可能

NTNグリーンパワーステーション

停電時にLEDライトや電源を供給

- LEDライトが自動点灯するなど災害でも役立つ蓄電の発電装置
- 風力と太陽光のハイブリッド発電
- 都市部や住宅地でも設置できる高い稼働率
- 環境教育や防災意識を高める効果も

防災拠点施設における非常用電源として採用

導入事例とお客様の声

⑦次世代自動車の導入

- 7月に策定した「公用車の次世代自動車導入方針」に基づき、グリーン資産創造課では今年度、ガソリン車を2台リースアップし、新たに**次世代自動車(MHV自動車)**を1台導入しています
- 次年度以降も計画的に次世代自動車への転換及び公用車の削減を図っていきます



新たに導入したMHV自動車



市が所有する次世代自動車の一部

⑧グリーンIoTラボ・桑名への提案状況

グリーンIoTラボ・桑名では、ゼロカーボンシティ実現に向けた新たな課題解決方法、新たな価値を創出し、脱炭素社会の実現に向けた取り組みをさらに加速させるため、民間事業者等からの様々なアイデアや、グリーンIoTラボ・桑名への提案を募集しています

■民間事業者等からの提案件数(対話件数)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	計
延べ件数	5件	7件	15件	12件	7件	5件	3件	54件

